

第 167 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：平成 31 年 4 月 23 日（火） 13：30～15：11

場 所：浜田市役所北分庁舎 2 階会議室 1

出席者：石本教育長 藤本委員 宇津委員 金本委員 花田委員

事務局 河上部長 前木参事 湯浅課長（兼室長） 河上副参事

市原課長 村瀧副参事 牛尾室長（欠席） 村木課長

外浦課長（代理：榊原係長） 平岡室長 原田分室長（欠席）

佐々尾分室長（代理：稲田係長） 三浦分室長 小松分室長（欠席）

書記：日ノ原係長 木谷主事

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 平成 31 年度教育委員会学校訪問について（資料 1）

(2) 平成 31 年度総合教育会議の議題について（資料 2）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) 各課年間スケジュールについて（資料 15）

1 教育長報告

石本教育長

新年度になり 3 週間が経過した。学校も入学式から 2 週間が経過するが、新入生はやっと慣れてきたという時に 10 連休に入り、逆戻りしないかと心配している。

また、委員方には、4 月 2 日に教職員辞令交付式、4 月 5 日に教育委員会歓送迎会、それから各小中学校、幼稚園の入学式、入園式と色々とお出席いただき、ありがとうございました。

それではお配りしている資料に基づいて 1 か月間を振り返る。

① 3 月 19 日（火）第 166 回浜田市教育委員会定例会（2 階会議室）
前回の定例会を 3 月 19 日に開催した。

② 3 月 20 日（水）教育委員と社会教育委員との意見交換会（浜田公民館）

社会教育委員の会が公民館のコミュニティセンター化について緊急提言を出されたが、これについて 2 時間ばかりの意見交換会を行った。

③ 3 月 24 日（日）浜田城跡（二ノ門）発掘調査現地説明会

城山公園の整備事業に併せて、現在発掘調査を行っているが、その中で色々と出土したものがあつたため、説明会を実施した。自焼退城の状況を具体的に示す焼け焦げた陶磁器、柱、瓦等が今回発掘されたということで、自焼退城の裏付けになるものが発掘された。

午前の説明会は60人の方が参加され、午後は20人の方が参加されたということで、合計80人の参加であった。また、午後の説明会は市長も参加された。私は、所用のため欠席させていただいた。

④ 3月25日(月) JAいわみ中央女性部・学校への雑巾贈呈式(教育長室)

毎年、JAいわみ中央の女性部から幼稚園、小中学校に手作りの雑巾をいただいている。JAいわみ中央のエリアは浜田、江津であり、会員の方1人に1枚作っていただき寄贈をいただいているが、今年は300枚の雑巾をいただいた。

段々と会員が減少してきており、昨年は400枚を超える寄贈をいただいたが、今年は300枚であったということで、JAの組織の中でも女性部の減少は問題となっているのではないかと思います、会長ともそういった話をしたところである。

学校にはすぐに配布し、4月から早速活用させていただいている。

⑤ 3月25日(月) 浜田藩高札場跡説明板所除幕式(浜田大橋南詰)

山陰合同銀行浜田支店の付近に郵便ポストがある広場のようなどころがあるのだが、江戸時代の掲示板である高札場がそこにあつたという記録を残すために説明板の設置を行った。

設置については、新町と蛭子町の自治会が中心となった、まちづくり推進委員会が地域課題解決型の補助金を受けて行った。

近くを通ることがあれば、是非ご覧いただければと思う。

⑥ 3月26日(火) 全国小学生ソフトテニス大会出場報告(教育委員室)

3人が全国大会に出場されるということで、松原小学校5年生の吉原さん、国府小学校4年生の河野さん、三階小学校4年生の松田さんが報告に来られた。

3人とも全国大会の出場は初めてということであった。

⑦ 3月27日(水)フットサルFリーグ・ポルセイド浜田2018シーズン報告(市長応接室)

ポルセイド浜田のチームの代表の方と事務局の方が、2018年のシーズンが終了したということで報告に来られた。

Fリーグについては、F1とF2の2つのカテゴリーがあるが、F1は12チームが所属しており、ポルセイド浜田が参戦しているF2は8チームが所属している。

8チームということで対戦相手7チームとホームアンドアウェーで対戦するため、14試合を行うが残念ながら13敗1引き分けであった。2017年のシーズンまでは良い成績を残していたが、2018年のシーズンは県外から来ていた主力選手が抜けてしまい、厳しいチーム事情であったということである。ただ、今後も県外から有望な選手が来られるということであり、2019年のシーズンは是非頑張っていたきたい。

14試合中7試合は地元の島根県立体育館で開催をされるが、また、応援に行きたいと思う。

⑧ 3月29日(金)市職員退職辞令交付式及び感謝状贈呈式(全員協議会室)、教職員退職辞令交付式及び感謝状贈呈式(浜田公民館)

⑨ 3月29日(金)退任公民館主事感謝状贈呈式(教育委員室)

5年以上勤務をされた公民館主事の方が退任されるにあたり、感謝状を贈呈した。

⑩ 3月30日(土)第15回梨田昌孝杯浜田市学童軟式野球大会(三隅中央公園)

今年は12チーム参加の予定であったが、急遽1チームが参加出来なくなり、11チームの参加であった。

優勝は大田の久手野球スポーツ少年団であり、2位は浜田市野球スポーツ少年団、3位が西部野球スポーツ少年団であった。

ここ4年間の優勝チームが長久、久手の順番であり、大田市のチームが4連覇している。大田市は中学校のチームも非常に強いが、スポーツ少年団の時からレベルが高いのだと実感した。

⑪ 3月31日(日)国府公民館有福分館開所式(有福分館)

旧有福小学校の閉校の際に、公民館の分館を旧有福中学校から旧有福小学校に移してほしいという地元要望があった。地元

の方は、旧有福小学校の伝統ある校舎、周りの桜の木々を大切にされており、そういった中に分館を移してほしいということであり、時間はかかったがようやく整備が終わり、4月1日から分館が旧有福小学校へ移転し、業務を開始している。

まだ、外構工事が残っており、進入路の整備や、校舎の前に花壇があったが、そこをアスファルト舗装して駐車場にするという整備がまだ残っている。

近くを通られる際は、是非行っていただきたいと思う。

⑫ 4月1日(月) 教育委員会・出向解除者辞令交付式(教育長室)、教育委員会・配置転換者辞令交付式(浜田公民館)、教育委員会・転入者辞令交付式(浜田公民館)

⑬ 4月2日(火) 教職員辞令交付式・管理職着任式・新規採用職員宣誓式(市総合福祉センター)

73人の方に辞令を交付した。73人の内、浜田市外から来られる方は48人であり、3分の2程度の方が市外から来られたということであった。

新規採用職員については小学校8人、中学校2人の計10人の方が宣誓式を行った。

⑭ 4月5日(金) 防犯グッズ及びランドセルカバー贈呈式(浜田公民館)

防犯グッズというのは防犯ホイッスルである。毎年、浜田ライオンズクラブ、浜田青少年健全育成推進会議、浜田市少年補導委員連絡会の3つの団体から、新入生全員に配布をいただいている。贈呈式では、ライオンズクラブの会長から石見小学校に入学する児童2人に対して贈呈が行われた。

ランドセルカバーについては、毎年、浜田市交通安全協会から、新入生全員に配布をいただいている。登下校の際、ランドセルに黄色いカバーをつけている児童は、周りから見ても1年生だということが分かり、気を付けなければいけないという気持ちにしてくれると思っている。児童も、カバーをもらうことを楽しみにしているという話を聞いている。

また、保険会社の連合会からワッペンをもらっているが、これは登下校の際に事故等にあった場合の保険に加入しており、そういった関係で、保険会社の連合会から配布をいただいている。

それ以外にも、防犯ブザーや黄色い手帳等といったものを、

山陰中央新報社や山陰中央テレビからそれぞれ、新入生全員に
いただいている。

- ⑮ 4月8日(月)入学式(弥栄中学校)、4月9日(火)入学式(全
小学校、弥栄中学校を除く全中学校)、4月10日(水)入園式
(石見幼稚園、長浜幼稚園、美川幼稚園)

私は8日の弥栄中学校、9日の原井小学校、第二中学校に出
席した。それぞれ、滞りなく入学式、入園式が行われた。

- ⑯ 4月14日(日)平成31年度美作濱田会慰霊祭及び総会(津山
市)

市の代表として、副市長と一緒に参加した。今回で通算130
回目の総会であり、明治時代から続いている。浜田藩最後の藩
主の関係の、家老や家臣の末裔の方が参加をされている。松倉
という家老の末裔の方も東京から親子4名で出席をされてい
た。

毎年、この会の出席者の方には浜田市のことを気に掛けてい
ただいており、非常に心強く思っている。

美作濱田会からは、今月の石州浜っ子春まつりへ来られる予
定はないが、秋の浜田開府400年記念式典の際はバスツアーを
組んで参加をされるということを聞いている。

- ⑰ 4月17日(水)浜田市指定文化財(無形民俗)認定書交付式
(教育長室)

無形民俗文化財としては、浜田市で初めての指定である。浜
田大名行列保存会に対し、保持団体であるということの認定書
を交付させていただいた。今月の石州浜っ子春まつりでは、市
の指定文化財になったということをしっかりPRしながら踊り
をされると聞いている。

以前から、指定をしてほしいという話はあったが、中々、根
拠とする資料が集まらず、指定に至らなかったが、この2、3
年で保存会の方が頑張って資料を集められ、指定に至ったもの
である。

- ⑱ 4月17日(水)第1回(仮称)浜田歴史資料館検討会(浜田
公民館)

(仮称)浜田歴史資料館については、1度予算も上程したが、
取下げとしたという経緯がある。そういった中で、もう一度歴
史資料館の建設の意義や是非も含めて、市民の方の意見を聞く
ための検討会を行ったところである。22人の委員の方に委嘱

をしており、4回の開催を予定している。検討会の中で、ある程度の方向性を示していただく様に依頼をしている。

⑱ 4月18日（木）平成31年度三市三町教育長会総会（川本町・悠邑ふるさと館）

事務局は浜田市であり、担当の湯浅課長も出席し、色々な説明等を行った。2日目は、島根中央高校、学習交流センター、川本北公民館の3か所の視察を行った。

島根中央高校は県西部でも非常に頑張っておられ、今年度も定員を上回る受験者があり、生徒が集まっている。県外からも多くの生徒が入学されており、特に今年度は女子の硬式野球部が創設されたということで、県外から10人程度の選手が入学されている。

学習交流センターの中に、県外から来られる生徒の寮もある。旧川本西小学校を改築し、寮にしているということで、普通の教室の中を箱の様なユニットで仕切りをしており、1部屋に6人が入れる構造であった。このような方法であれば予算が抑えられると感じた。お風呂について、大きなものを想像していたが、シャワーと小さいサイズの浴槽を備えた風呂場がいくつもあり、4人で1つのユニットを使用する形となっており、プライバシーに配慮するものであった。また、風邪をひいた際に他の生徒に病気がうつらない様に生活するための部屋等もあり、高校生が入居する寮としては、中々良い寮であると感じた。

⑳ 4月23日（火）平成31年度第1回教育委員会部内会議
各課の持っている懸案事項等の情報交換を行った。

質疑応答

藤本委員

質問ではないが、最後に話があった島根中央高校について、今、浜田市の3つの高校も定員を割っており、生徒数を増やす取組を色々と思案している。ただ、これは県全体の問題であるため、簡単に答えは出ないと思うが、島根中央高校については見えづらいところで特色ある取組をされている。

その特色というのが、先ほどあったが、女子の硬式野球部を作られたことや、また、数年前に野球部の新田監督が浜田高校におられたが島根中央高校に転任された。そういったことで、以前は13人しかいなかった野球部員が一昨年行って見たところ60人を

超えていた。1年生に話を聞いたところ安来市立第一中学校や雲南市立木次中学校等市外から20人くらいが来ており、寮に入っているとのことであった。これは、なかなか表には出ていないが、こういったことも1つの特色ある学校づくりだと感じた。

中々、すぐに浜田市で真似出来ることではないが、参考になると感じている。

石本教育長

特色ある取組ということでお話しがあったが、島根中央高校は野球やカヌーが強い学校であるため、そういった目的で入学される生徒は多いと思う。

意外であったのは、学校の説明の中で、関西方面から入学している生徒で、学習塾の先生から島根県で学習に集中して取り組むことが出来る学校として島根中央高校を紹介され、来ている生徒がかなりいるとのことであり、驚いている。また、実績が出ていることと、関西出身の生徒が多いということで、関西方面からは来やすい状況となっているという話でもあった。

石見智翠館高校も進学コースがあるが、島根中央高校も、難関と言われる大学に数名進学しているということであり、勉強に集中して取り組んでいる生徒も多いと感じた。

宇津委員

学習交流センターにはどれくらいの生徒が入居されているのか。

湯浅課長

部屋数としては45部屋であり、若干の空き部屋があるとのことであったため、入居者は40人弱程度である。

石本教育長

勉強の時間があり、その時間になると、全員が学習専用の部屋で勉強をする。図書館の学習室の様に、机の間が仕切で区切られている。そのため、家庭学習時間は0時間ということにはならない。

宇津委員

以前は桜江町や江津方面から、列車を利用して川本町へ通っていた生徒が多くいたと思うが、三江線が廃線となり、バスがあるとは言っても、学校としてはマイナスの要因となっているはずである。そういった中であって、生徒数を増やしているということは非常に努力をされているのだと思う。

石本教育長

学習交流センターは、小学校の廃校を利用しているため、校庭や体育館もあり、自由に体を動かすことが出来る。場所は川本町の因原である。学習交流施設ということであるが、そういった目的もないと、学生寮を新設することは中々難しい。施設内に誰でも利用可能な場所があり、学習塾となっているが、学習塾は寮生

各委員

の方も寮生でない方も利用出来る。そのようなことで、寮だけではない学習交流施設ということである。

その他はよろしいか。

特になし。

2 議題

(1) 平成 31 年度教育委員会学校訪問について (資料 1)

日ノ原係長

資料をご覧いただき、毎年度実施している教育委員会学校訪問についてである。1 目的については変更なく、教育委員が学校経営、学校運営を見聞し、今後の教育行政の推進に意を用いるために行うものである。

2 訪問対象校 (園) についてであるが、ここ数年、幼稚園については 10 月に訪問しており、別の回の定例会で諮っているため、今回は小中学校のみの提案としている。

3 実施時期については 5 月から 9 月までと記載しているが、ここ数年は 7 月に訪問しており、昨年度は 7 月 4 日から 7 月 12 日までの間で 6 日間実施をした。時期については、今年度も小中学校は 7 月上旬、幼稚園は 10 月の訪問で良いかということ併せてお諮りする。細かい日程については、後ほど調整させていただく。1 校あたりの訪問時間は 50 分を予定している。

4 訪問者は教育長、委員方、教育部長、教育総務課長、学校教育課長、学力向上推進室長、総務企画係長の計 10 名を予定している。また、別途提案するが、幼稚園訪問については、この度併任となった教育部参事及び教育総務課副参事を加えることを考えている。

5 訪問内容であるが、順番としてはなるべく校内視察の後にヒアリングとなる様に考えているが、訪問時間によっては順番が逆になる可能性がある。意見交換のテーマについては資料に参考として平成 26 年度から 30 年度までのものを載せており、平成 27 年度以降については、小学校のみのテーマ、中学校のみのテーマ、小中学校共通のテーマといった区分けをしている。ここ数年は、1 つが学力向上に係る取組のテーマに加えて、1 つ 2 つ程度の別のテーマを設定しているが、今年度のテーマについて、ご審議いただきたい。

以上、概ねの訪問時期とテーマについてお諮りする。

石本教育長

事務局から提案があった。まず時期については例年どおり 7 月

	上旬から中旬にかけて6日間程度ということによろしいか。
各委員	全会一致で承認
石本教育長	では、7月上旬から中旬にかけてということで事務局は日程調整を行うようにお願いします。ただ、昨年度問題となった、授業が終わった後に訪問することについては、検討する様に。
日ノ原係長	それは一昨年度のことであり、昨年度はその話を受け、1日の訪問校を少なくして対応した。
石本教育長	記憶違いであった。では、今年度もその様に対応をお願いします。テーマについては7月の訪問であるため、5月に決定しても良いのではないか。
日ノ原係長	学校側の準備が心配であるが、日程だけ先に伝えてテーマは後で伝えることとなる。
石本教育長	5月定例会の後で通知しても、訪問までは1か月あるため大丈夫である。
宇津委員	学力向上の取組をテーマとした際に、全国学力調査の分析結果の話となると間に合うのであろうか。
日ノ原係長	本日欠席の牛尾室長に確認したところ、今年度も全国学力調査の自校分析、自校採点は求めないということであり、結果が分かるのは7月末となるため、学校訪問には間に合わない。そのため、昨年度は12月に行う県の学力調査の結果を受けての取組について意見交換を行った。今年度も学力向上に係る取組をテーマとするのであれば、同じ形で行うこととなる。全国学力調査の結果については、結果が分かり次第定例会で別途報告させていただく。
石本教育長	それでは、テーマについては5月の定例会で決定することとし、それまでの間に考えていただく様をお願いします。 幼稚園訪問について、幼稚園側から早くしてほしいという要望はなかったか。
日ノ原係長	特にそのような要望は聞いていない。
石本教育長	承知した。それでは、幼稚園訪問については、実施する10月前の定例会で別途決めることによろしいか。
各委員	全会一致で承認

(2) 平成31年度総合教育会議の議題について (資料2)

日ノ原係長	先般、2月に行った平成30年度総合教育会議の中で、平成31年度の会議は、年度の早い時期に行うようにとの話があり、それを受けて、今年度について、資料に記載のとおり6月5日に開催
-------	---

することを提案するものである。

テーマについては、昨年度、社会教育委員方から教育委員会及び市長へ提言のあった公民館のコミュニティセンター化をテーマとすることを提案する。当日は、教育委員会からのたたき台を題材に意見交換が出来ればと考えている。

以上、日程とテーマについてご審議いただきたい。

石本教育長

少し補足すると、平成 30 年度総合教育会議の中で、市長から年に複数回開催して意見交換を行いたいとの話があった。平成 27 年度が初年度であり、その際は教育大綱の策定があったため年に複数回開催したが、その後は1年1回の開催であった。特に1年に1回は開催しなければならないという決まりもないが、市長は複数回開催したいという思いを持っておられる。

テーマについて、公民館のコミュニティセンター化ということであるが、これについては、今、自治区のこれからをどうするかということを検討しており、自治区が変わっていく中でまちづくりの拠点をどういった形にするのかといった関係で、公民館のコミュニティセンター化という話が出ている。これについては、9月くらいを目途に方針決定をするということであり、それまでのところで意見交換を行いたいという話である。また、公民館のコミュニティセンター化だけで2時間は長いと思うため、加えて1つ2つの議題があれば良いと思う。

開催日については6月5日でよろしいか。

各委員

全会一致で承認

石本教育長

テーマについては、本日他のテーマを決定しなければならないのではないか。

日ノ原係長

今回は、このテーマ一本で考えている。担当課の村木課長とも相談をする中で、2時間くらいは必要であるのではないかと話している。

公民館のコミュニティセンター化に伴い、機構の話もしなければならぬと思っている。現場職員の配置や現担当課である生涯学習課の体制の問題もある。

石本教育長

確かに、公民館職員の処遇等の話も出るかもしれない。ただ、そういった話が出た際に、地域政策部や生涯学習課の担当の職員に出席をしてもらうように調整をして、市長へ了承してもらう必要があるのではないか。

日ノ原係長

承知した。

藤本委員	3月の定例会でこの件が議題となっているが、地域政策部からは前向きな答弁がされていたと思う。そのため、先ほど言われた様に、教育委員会だけでなく、地域政策部とも連携して議論しなければならないと思っている。
	また、公民館のコミュニティセンター化の方向性について、公民館職員は知っているのか。
村木課長	知っている。自治区制度と同じ形で説明されているし、まちづくりを推進するために公民館のコミュニティセンター化を行うといった議論があることも知っている。
石本教育長	公民館長に対しては説明しているが、公民館主事に対して説明しているのか。
村木課長	公民館主事に対して、直接説明はしていない。
石本教育長	公民館主事が集まる会議があるが、その中で方向性の説明を行う様に。
村木課長	承知した。

3 部長・課長等報告事項

河上部長	<p>平成31年6月浜田市定例会議（予定）（資料3）</p> <p>資料をご覧ください、まず5月23日に総務文教委員会がある。昨年度までは会期議会であったため、調査会であったが、今年度から通年議会となるため、委員会となっている。基本的には通年議会となっても、大きな変更がない様に議会の方で調整されたということで、6月定例会の時期も概ね例年どおりとなっている。また、年間を通して会期には変更がない様にするという方針で聞いている。</p> <p>6月議会については、6月19日に開会し、そこから4日間の一般質問、6月26日に議案質疑、6月27日から各委員会、7月2日の予算決算委員会を経て、7月4日に表決、閉会というスケジュールとなっている。</p>
湯浅課長	<p>行事等予定表（資料4）</p> <p>本日4月23日から5月末までの間の予定を掲載している。委員方へ出席いただく行事に丸がついているが、現在確認しているものが、5月23日の小体連陸上大会、5月28日の第168回教育委員会定例会である。また、5月末以降ではあるが、先ほど議題のあった6月5日の総合教育会議についてもあらかじめ</p>

石本教育長

め記載をしている。

5月23日の小体連陸上大会について、申し訳ないが、私は同日に全国都市教育長協議会定期総会・教育研究大会に出席をするため、藤本委員にあいさつをお願いします。

藤本委員

承知した。

湯浅課長

浜田市学校給食における食物アレルギー対応ガイドライン（資料5）

給食のアレルギー対応については、これまで浜田市のガイドラインは策定しておらず、文部科学省や島根県のガイドラインを準用していたが、この度浜田市学校給食における食物アレルギーガイドラインを策定したため、報告する。

内容については、前半が食物アレルギーやアナフィラキシーショックについての説明記事を掲載している。例として、2ページをご覧ください、これらの記事については日本学校保健会や民間の出版物から引用しているものであり、転記の内容については発行元に許可を得ている。

それでは、抜粋して内容の紹介をする。6ページには、アナフィラキシーショックを発症した際の対応について掲載している。7ページには、浜田市学校給食におけるアレルギー対応方針を掲載している。8ページには、具体的な対応方法と対応する食品について掲載をしている。17ページ以降には調査票や、事故発生時の報告書様式等があり、最後の23ページにはエピペンを使用した際の報告書を掲載しており、この様式については救急車を要請した後、救急隊員に渡すことにより引継がスムーズに行えるということで、消防署と協議して策定したものである。

また、先日行われた4月の校長会、教頭会においても、ガイドラインを配布し内容の説明を行ったところである。学校ネットワークにもデータを入れているため各学校において必要に応じて、様式等の活用が出来る状況となっている。

河上副参事

平成31年度公立幼稚園園児数一覧表（資料6）

4月から幼稚園の業務を子育て支援課が担当するという一方で、教育委員会の併任を受けているため、私から説明をさせていただきます。

石本教育長
河上副参事

資料をご覧いただき、平成 31 年度公立幼稚園の園児数の一覧表である。2 点特記事項があるが、1 点が原井幼稚園について今年度は休園となっている。もう 1 点が石見幼稚園について、昨年度までは 3 歳児から 5 歳児まで、それぞれ単式学級であったが、4 歳児と 5 歳児の合計が 25 人以下となったため、混合学級となった。それにより、今年度は 3 園とも 4、5 歳児は混合学級となり、計 6 クラスで新年度をスタートした。園児数の合計は 74 人である。

71 人と別の資料で見た気がしたが、74 人が正しいのか。

74 人が正しい。昨年度と比べると 5 人の減となっている。

市原課長

平成 31 年度学校職員名簿（資料 7）

資料をご覧いただき、網掛けとなっている人が異動のあった人である。校長は 11 人、教頭は 12 人、主幹教諭は 4 人が転入や転補で異動となっている。また、資料の一番下のところにあるが、前第二中学校長の 大野先生が、美川幼稚園長に着任されている。

平成 31 年度学校別児童生徒数一覧表（資料 8）

4 月 1 日時点の児童生徒数について、掲載している。最終的には 5 月 1 日時点のものを、次回の定例会で報告させていただく。資料について、表が小学校、裏面が中学校、裏面の下が小中学校の合計を掲載している。

昨年度と比べると小学校の児童数は 2,505 人で 47 人の減、中学校の生徒数は 1,278 人で 46 人の減ということで、全体で 93 人の減となっている。ただ、特別支援学級の生徒児童数は 4 人の増となっており、特別な支援を要する生徒児童については特別支援学級だけでなく通常学級においても年々増えている状況である。

また、表面の波佐小学校の欄であるが、新入生が 0 人であり、入学式が行われなかった。それから、各学年の児童の合計数を見ると、1 年生のみが 400 人を下回っている状況である。

村瀧副参事

青少年サポートセンターの利用状況について（資料 9）

平成 30 年度の青少年サポートセンターの利用状況を報告させていただく。最初に、延べ相談件数について、合計 1,133 件

の相談を受けている。平成 29 年度分も掲載されているが、不登校等の学校問題の相談件数が増えている状況である。

次に、相談対象人数について、平成 30 年度末の合計が 84 人であり、平成 29 年度末の合計が 94 人であるが、年度が替わった時点で、既に他の関係機関に繋がった方や、就職等で支援が必要なくなった方、あるいは転出された方を除き、平成 30 年度当初は 75 人の方を相談対象としていたが、年度途中で 9 人加わっている。

次に、若年無業者の状況ということで、これは学校あるいは職業に就いていない方であるが、34 人の内ひきこもりの方が 29 人、ひきこもりではないが職業に就いていない方が 5 人となっている。

最後に、居場所の部屋別の利用状況である。平成 30 年度は利用者数が 1,044 人であり、1 日の平均利用人数が 4.28 人であった。平成 29 年度は利用者数が 767 人であり、1 日の平均利用人数は 3.19 人であった。ただし、平成 29 年度は当初北分庁舎 1 階にあり、北分庁舎工事の関係で旧図書館に移動し、その後、現在の北分庁舎 2 階に移動したということで、居場所が点々としていたことや、部屋も全く一緒という訳ではないため、単純に比較は出来ないが、利用者状況は増えていると思っており、安心出来る居心地の良い空間環境を提供出来たのではないかと考えている。

市原課長

平成 30 年度浜田市小中連携教育実践記録集（資料 10）

牛尾室長が欠席のため私から説明させていただく。資料をご覧いただき、1 ページから 2 ページにかけて浜田市小中連携教育基本方針を掲載している。平成 21 年度に最初の方針を示し、平成 22 年度から平成 27 年度までが最初の取組であった。その後、平成 27 年度に法改正があり、名称も小中一貫教育から小中連携教育へと変更し、平成 28 年度から 6 年間ということで新たな取組を行っている。その前半部分が平成 30 年度までであったということで、前期 3 年分の取りまとめの資料となっているため、またご一読いただければと思う。

村木課長

浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び平成 30 年度の活動について（資料 11）

昨年の5月1日に長畑実氏に浜田市社会教育アドバイザーの委嘱を行ったが、今年度についても、4月1日から1年間の委嘱を行ったため報告させていただく。

また、資料の5-(1)平成30年度の活動報告の抜粋であるが、地域等からの依頼による講演会、講評活動で5つ挙げている。行政相談委員・人権擁護委員の会の依頼による講演、はまだっ子共育プロジェクト研修会での講演、旭自治区からの依頼によるまちづくり関係の研修での講演、雲城公民館で開催されたボランティア感謝祭での講評、三隅生涯学習推進本部からの依頼による生涯学習のまち・地域づくり研修会での講演等を行っている。

裏面に5-(2)社会教育委員の会等主な会議への出席とアドバイス活動を掲載している。多く、公民館や社会教育委員の関係の会議等に出席いただき、中央の動きを説明していただいた。また、その他、著作権関係の助言、文化振興課の関係での助言、公民館長研修における中央教育審議会の関係の説明、雲城公民館のボランティア感謝祭の企画会でのアドバイス等をしていただいている。

また、5-(3)に一年間の活動のまとめとして「島根一の社会教育・生涯学習振興・推進都市浜田市をめざして」と題し提言書を作成していただき、山陰中央新報で2回の紹介があった。

はまだっ子共育プロジェクト実践集について(報告)(資料12)

別冊25ページの実践集を作成し、市内9中学校区の活動を「地域学校協働活動」「放課後子ども活動」「家庭教育支援」の3つに分類し掲載している。色々ある中で、平成30年度の活動の中から18活動をピックアップして、統括コーディネーター、校区コーディネーター、魅力化コーディネーター、それぞれが活動の内容や思いを寄稿している。

このはまだっ子共育プロジェクトは3年前から開始されたが、今年の4月からはステップアップし、はまだっ子共育推進事業と名称を変更し、地域学校協働活動の推進と家庭教育支援活動の推進の2つの柱をもって活動をしていきたいと思っている。その前に、この度、事業実績としてはまだっ子共育プロジェクト実践集を作成したため報告するものである。

なお、冊数としては400冊作成し、小中学校、定例教育委員

石本教育長
村木課長

会、社会教育員の会、公民館、子ども教室及び議会等へ配布予定である。

まだ、受け取っていない。

失礼した。すぐに持ってくる。

平成 30 年度浜田市立図書館全館の利用状況（資料 13）

中央図書館と三隅図書館で開館 5 周年を迎えた平成 30 年度はボランティア団体の手厚い支援を受けながら事業を展開した結果、単年度の貸出しで初の 27 万冊を超え、2 月 22 日には中央図書館の来館者が通算 100 万人を超えるということがあった。

実績表に図書館別に来館者数、利用者数、個人貸出点数、利用団体数、蔵書数、開館日数等を掲載している。資料の弥栄図書館の来館者数の数字が漏れているが 491 人であり、それにより合計が 207,693 人と変更になる。

来館者数は昨年度比で概ね 3,500 人の増となっており、要因としては、会館 5 周年を迎えた事業展開、屋外でのイベント行事の開催及び石見公民館と連携して読み聞かせの事業を展開したこと等の結果が出ていると分析している。

また、資料の下の方に電子書籍の記載があるが、コンテンツ数が 1,822 点であり、昨年比で 355 点の増となっている。ただ、貸出点数は 194 点であり、昨年度比で 53 点の減となっている。

また、市民一人当たりの貸出冊数は年間で 5.57 冊である。まだ仮であるが、将来的にはこの数字が、図書館年報において県から発表されることとなる。ちなみに昨年度は 5.2 冊であった。

平岡室長

おはなしコンサート差別のない社会をつくるために（資料 14）

開催日時は 5 月 10 日 13 時から 15 時まで、会場は浜田市金城総合運動公園ふれあいジム・かなぎである。

内容は第三中学校区の小中学校 3 校による、人権・同和教育の取組についての実践発表である。

また、「おはなしコンサート～差別のない社会をつくるために～」というテーマで、ソプラノ歌手の渡辺千賀子さんに講演いただく。渡辺さんが浜田市に来られるのは 3 度目であり、前回は平成 24 年 10 月に、ふれあいジム・かなぎで講演いただい

村木課長

ている。人権の大切さを伝えるフォークソング中心の「小さな手のひらコンサート」を全国各地で開催されているが、今回も原爆や差別についての歌等、心に残る歌とお話を聞かせていただけたらと思っている。たくさんの方にご来場いただき、共に学び、人権感覚を育んでいきたいと思っている。

地域学習支援事業～勉強の場所づくり～について（追加資料）

地域学習支援事業という名称であるが、昨年度まで実施していた土曜学習支援事業である。土曜学習支援事業は、参加人数が少数であったことから、事務事業評価において行財政改革推進本部会議の中で事業内容見直しの評価を受けた。また、結果的に昨年度、土曜学習支援事業は未実施であった。今年度については4月から地域学習支援事業～勉強の場所づくり～ということで新たな形で実施していることを公民館中心に周知している。

内容として、まずは小中学生や高校生に対して、勉強の場所を提供する。従来は中央図書館に場所を用意しており、退職された先生を配置して、登録制で実施していたが、今回の事業は公民館等の社会教育施設や学校の余裕教室を活用する。また、地域人材や専門的な外部人材を活用するために幅広く講師を募ることや、支援や配慮が必要な小中学生や高校生に対して適切な学習支援を行う。

資料は、事業主体に対してのものになっているが、子ども達へのチラシは別のものである。

資料をご覧いただき、事業主体は浜田市教育委員会であり、浜田市教育委員会は事業の全部を「はまだっ子共育運営委員会」に委託する流れである。

次に、事業の実施方法について、事業を実施しようとする公民館、または地域団体等は、実績計画書等を運営委員会に提出する。

次に、事業実施に伴う必要経費について、指導者に謝金を支払うが、指導者が公民館職員であった場合には支払いはない。また、事業運営に伴う消耗品費についてのみ補助対象経費として事業実施者へ支払いを行う。

最後に、事業実施の留意事項について、事業には相応しい名前を付けること、参加者を固定しないで全ての子どもを対象に

<p>石本教育長 各課長 石本教育長</p>	<p>すること、学校と連携・協働すること、事業の指導者等は教育委員会等が行う研修会の参加に努めることとしている。</p> <p>その様な幅を広げた形の内容で、今後、公民館や地域団体を対象とした募集を行う。また、派遣社会教育主事が出向いて、この事業を支援する。そういったことで、昨年度実施出来なかった土曜学習支援事業を新たな形で強く推進したいと考えている。</p> <p>その他、資料のないところで各課長から報告事項はあるか。特になし。</p> <p>委員方から質問等があればお願いしたい。</p>
<p>藤本委員</p>	<p>質疑応答</p> <p>行事等予定表について、4月23日から掲載されているが、先般野球場を通った際に、中学校の野球大会が行われていた。あれは、練習試合ではなく公式の試合であったと思うが、特に委員には案内が無かったか。</p>
<p>石本教育長 宇津委員 藤本委員</p>	<p>石央野球であろうか。</p> <p>石央野球は中学校体育連盟の主催である。</p> <p>道路からチーム名が見えたが、例えば第四中学校と金城中学校の合同チームが出場していた。</p> <p>前回の定例会の際の予定表にも、今回の予定表にも掲載されていないため、ちょうどこの間であったのだと思う。</p> <p>というのも、観戦したかった。何を見るかという、ベンチ中の生徒と指導者の関わり方等を、1塁側、3塁側で時間を決めて見ることにしている。そのため、見たかったところが見られずに残念であった。</p>
<p>石本教育長 日ノ原係長 石本教育長</p>	<p>行事予定表は教育総務課で作成しているのか。</p> <p>各課入力したものを教育総務課で取りまとめしている。</p> <p>では、中央大会の年間計画があるため、それをこの予定表に入れる様に。</p>
<p>市原課長 石本教育長</p>	<p>承知した。大変、申し訳ない。</p> <p>平成31年度小中学校児童生徒数について、小学校は前年度比47人の減であり、中学校は前年度比46人の減であるが、小学校6学年で47人の減、中学校3学年で46人の減ということは、段々と減り幅が小さくなっているのでしょうか。ただ、小学校の1年生が、かなり少ないため今年度は偶然そうになっているのかとも思</p>

市原課長 う。また、分析する様に。
年度によって、定員の数も違うこともあるが、前後の動きも見てみる。

石本教育長 出生数もここ4年間400人未満であるため、当然2年後には児童数に、その影響が出てくる。
また今後、将来推計の資料を配って説明する様に。

市原課長 承知した。
宇津委員 地域学習支援事業について、以前は、小中学校の児童生徒のみが対象であったと思うが、高校生も当時から含まれていたか。

村木課長 高校生は国の補助対象となったのが、平成29年度からであり、それまでは高校生は対象としていなかった。

石本教育長 実施をするのは公民館や地域団体等であるが、現場で指導を行うのははまだっ子共育運営委員会であるのか。

村木課長 指導を行うのは、地域人材である。

石本教育長 はまだっ子共育運営委員会には教育委員会事務局もメンバーに入っているのか。

村木課長 入っている。運営委員会の事務局も持っている。
石本教育長 この事業については、学校に説明しているのか。
村木課長 まだである。
石本教育長 この資料が出回る前に、学校に説明をしなければ混乱を招くことになる。

村木課長 現在、派遣社会教育主事にも動いてもらっている。
金本委員 利用料は無料であるか。
村木課長 無料である。
石本教育長 学校教育課で島根県立大学生の放課後学習支援も行っていると思うが、それと並行して行うのか。

村木課長 そうである。
石本教育長 また、放課後児童クラブに通う児童が、放課後児童クラブの前に地域学習支援事業の方に行きたいという場合はどうするか等を考えなければならない。

村木課長 放課後児童クラブとの調整は今後、行わなければならないと思っている。そのため、すぐに実施するのは難しいかもしれないが、間口は広げて実施したいと考えている。

石本教育長 良い取組であると思うが、そのあたりの根回しをしっかりと行わなければ、混乱を招くことになるのではないかと心配している。調整を行う様に。

村木課長 花田委員	承知した。 指導者に資格は無くても良いのか。例えば、近所の方でも良いのか。
村木課長 花田委員 村木課長	近所の一般の方でも良い。 学習を支援出来るのか。 学習支援の目的もあるが、見守りの目的も兼ねている。例えば、中央図書館で、中間・期末テスト時期になると1階が満員になるのだが、そういった際に2階を使用するためには、誰もいないわけにはいかないため、せめて見守りの様な人がつけられないだろうかという話もあり、今回の事業はそれを兼ねている。
石本教育長	今でも、1階の学習室がいっぱいになると2階を使って良いという便宜を図っているのではないか。以前は使っていた。
村木課長	今は行っていない。職員が配置できないため、使用できない。 ある意味この事業は、生涯学習係と図書館の連携である。それが三隅にも当てはまり、三隅の専門学生に何人か英語と数学を教えることが出来る生徒がいるが、図書館の利用率が低いということで、相談を受けている。専門学校の地域連携推進委員である長畑社会教育アドバイザーと、地元のコーディネーターの荒木さんが調整をしており、三隅でこの事業を出来ないかと調整している。浜田公民館も2階が広がったこともあり、県立大学生と連携して、この事業を出来ないかと考えている。
石本教育長	承知した。また、学校の空き教室は、改めて学校教育課に聞けば良いが、おそらく無いと思う。
宇津委員	図書館の利用状況について、市民1人当たりの貸出冊数が5.57冊ということであったが、この数字は県内で高いのか低いのか。
石本教育長	高いところで、7コンマ何冊といった数字であったため、5.57冊は高い方ではない。ただ、中央図書館建設の際に立てた目標が5.0冊であったため、それはクリアしている。本当は、7、8冊くらいであれば良いが。
金本委員	市民一人当たりの貸出カード所有率も把握しておくべきである。
石本教育長	図書館に聞けば分かると思う。 その他はよろしいか。
各委員	特になし。

4 その他

(1) 平成 31 年度各課の年間スケジュールについて (資料 15)

日ノ原係長	平成 31 年度の各課の年間スケジュールについて、現在分かっているものを、教育総務課から三隅分室まで掲載している。委員方へ出席いただく予定には丸を付けているため、計画をたてる際の参考にしていただければと思う。また、年間スケジュールの掲載の有無に関わらず、月間の行事等予定表については、定例会で配布する。
-------	---

(2) その他

石本教育長	事務局からその他何かあるか。
各課長	特になし。
石本教育長	委員方からご報告やご質問があればお願いします。
各委員	特になし。

次回定例会日程

定例会 5月28日(火) 13時30分から 北分庁舎2階会議室

次々回定例会日程

定例会 6月28日(金) 13時30分から 北分庁舎2階会議室

15:11 終了